

自動車から競技実験マネキンまで

# 分野をまたぎ製品開発

板金塗装や電気自動車製造を手掛ける斎藤クラフト

山形大や筑波大から実験用具も受注する。

（山形県中山町、斎藤秀雄社長）。培った自動車分野の技術を生かし、スキーの競技力向上に向けた実験用マネキンの製作など、新たな分野でビジネスチャンスを広げている。

1992年に創業し、現在の従業員は3人。小規模ながらも本業以外にカーボンファイバー（炭素繊維）製の扇子などさまざまな製品開発を請け負い、近年は

例ええば2013年に開発した、スキー・ジャンプの飛び出しから着地までの姿勢を再現できるマネキン。最適なウエアや姿勢を探る風洞実験に使用されている。電気自動車のボディーに使う纖維強化プラスチック製で肩や股関節など14カ所が動く。完成度は高く、アルペックスキーなど他競技のマネキンの注文にもつながっている。

毎年、省エネカーレースに参戦し、本業のレベルアップも欠かさない。昨年、ガソリン1リッル当たりの走行距離を競う全国大会の一般クラスで1793・812キロを記録し、過去最高の4位に輝いた。斎藤社長は「今後も本業を大事にしながら新分野に挑戦したい」と力を込めている。

## 山形

—斎藤クラフト（中山）



省エネカーレースに参戦し、自動車分野の技術力向上に努める斎藤クラフト。左端が斎藤社長＝中山町・斎藤クラフト